



——この病院では、奇蹟が起きる。

神様のカルテ

栗原^{いちと}一止は信州のとある地域の中規模病院に勤める内科医である。夏日漱石に影響された古風な口調が災いし、周囲からは変人と称されている。今回紹介する『神様のカルテ』は、そんな一止が送る日常を描いた物語である。

作者の夏川氏自身も医師であり、地域医療に貢献している。そんな現役医師の夏川氏の手によって紡がれたこの物語を読む上で重要になってくるのは、地域医療の現状だ。一止が勤める病院でも医師不足が深刻な問題で、一作目の冒頭から一止は結婚記念日を失念するほど日々仕事に追われている。一止はそんな現状を「医療の底辺」と言っている。

他にも、大学病院への批判的考察や延命治療などの医療問題についての言及が折に触れてなされている。また、患者と家庭のどちらを選ぶかといった葛藤や、医師を便利な道具として扱う患者たちの描写からは、医師というひとりの「人間」について考えさせられる。このように医療について深くまで書けるのは、夏川氏自身が地域医療に従事しているからこそであろう。

一方で、本文からは夏川氏が抱く理想も感じ取れる。ただ患者の病を治すのではなく、その心を救うために、例えば外出厳禁の患者を連れ出し大好きな光景を見せてあげるなど、現実の医療では到底考えられないような描写もある。それを青臭い理想だと片付けてしまうのは簡単だ。しかしこの物語からは、あるべき医療とは何か、そしてそこから“本当に人が生きる”とは何か、という夏川氏からの力強い問いかけを感じてやまない。

この物語は一止が患者の病を治す奇蹟の物語ではないし、一止は神の手を持つ名医でもない。むしろ、救えない命を前に日々見えない涙を流し、自分の無力さを痛感する、小さな存在である。それでも、目の前の患者に全力で向き合い、最善を尽くす。だから一止と出会う患者はみな、さいごには幸せな笑顔を見せる。

たとえ病気は治らなくても、心は、きっと救える。この病院では、奇蹟が起きる。



* 作品情報 *

	定価(税別)
神様のカルテ	¥1,200 (文庫版: ¥552)
神様のカルテ 2	¥1,400 (文庫版: ¥714)
神様のカルテ 3	¥1,500 (文庫版: ¥714)
神様のカルテ 0	¥1,300

作者: 夏川草介 発行: 小学館